

実務経験のある教員等における科目の一覧表(看護学科)

科目名	単位(時間数)		科目名	単位(時間数)	
看護理論	1	30	高齢者の生活を支える看護技術	1	30
日常生活を整える看護技術(環境・活動と休息)	1	30	精神に障がいをもつ対象への看護過程	1	15
日常生活を整える看護技術(食事・排泄)	1	20	性と生殖の看護技術	1	30
日常生活を整える看護技術(清潔、衣生活)	1	30	小児看護技術	1	30
基礎看護技術総合演習	1	30	健康障がいをもつ子どもと家族の看護過程	1	15
セルフケア支援看護技術	1	30			
計				11	290

【実務経験の活用】

看護師として5年以上の臨床経験を活かし、上記授業において、理論と実践の整合性を取り、各科目において看護学の専門性を深める教育を行う。

専門分野

授業科目名	看護理論	
科目目的・目標	この科目では、科学的根拠に基づく看護学の基盤である看護理論について、対象のニーズの充足に注目したヘンダーソンを中心とし、その他の代表的な理論を通して、その理論の源泉や看護のとらえ方、人間観について学ぶ。また、看護実践に看護理論をどのように活用できるかを学ぶ。 1. 看護理論を学ぶことの意義を説明できる。 2. 理論の分類と特徴を述べるができる。 3. 主な看護理論の歴史的背景と特徴を説明できる。 4. 看護理論の実践への活用を説明できる。	
授業概要	F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソン、D. オレムを学習し、看護のとらえ方や看護実践への活用方法を理解する。	
担当講師	中安ゆかり	
実務経験のある教員等による授業科目	訪問看護ステーションにて7年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。	
開講時期：単位	1年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	看護理論の特徴と役割 ・看護理論活用の目的
	2回	ナイチンゲールの看護論・理論の歴史的背景と特徴
	3回	ナイチンゲールの看護論
	4回	ナイチンゲールの看護論
	5回	ナイチンゲールの看護論
	6回	ナイチンゲールの看護論
	7回	ヘンダーソンの看護論
	8回	ヘンダーソンの看護論
	9回	ヘンダーソンの看護論
	10回	ヘンダーソンの看護論
	11回	ヘンダーソンの看護論
	12回	ヘンダーソンの看護論
	13回	オレムの看護論
	14回	オレムの看護論
	15回	試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナースンググラフィカ18巻 看護学概論 看護覚え書 F. ナイチンゲール 看護の基本となるもの V. ヘンダーソン	メディカ出版 日本看護協会出版会 日本看護協会出版会
参考書		
評価方法		
その他		

専門分野

授業科目名	生活を整える看護技術（環境調整技術・活動休息技術）	
科目目的・目標	人間の生活における環境の意義と環境を整える方法を学び、対象が安全安楽に過ごすことができる援助技術を習得する。 1. 人間と環境の相互関係について理解することができる。 2. 環境を整えるための基礎的技術を身につけることができる。 3. 療養環境をアセスメントし、対象の状態に応じた援助ができる。 4. 活動と休息のバランスとそれらが生活に及ぼす影響を理解することができる。	
授業概要	看護を学ぶ学生に必要な不可欠な「環境」について考えることができる知識を身に付け、病床にある患者が快適に過ごすことができる技術を習得する。 人間の基本的な姿勢や体位について学び、ボディメカニクスを活用した体位変換や移動技術を習得する。 対象の安楽に向けた技術について学び、安楽に向けた技術を習得する。	
担当講師	大出 幸子	
実務経験のある教員等による授業科目	小児病棟にて5年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に寄り添い、看護の機能と役割を理解し看護する能力を養う授業を行う。	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	生活と環境
	2回	対象に応じた環境整備（演習）
	3回	対象に応じた環境整備（演習）
	4回	対象に応じたシーツ交換（演習）
	5回	対象に応じたシーツ交換（演習）
	6回	対象に応じたシーツ交換（演習）
	7回	体位
	8回	対象に応じた体位変換
	9回	移動・移送
	10回	対象に応じた移動・移送（演習）
	11回	対象に応じた移動・移送（演習）
	12回	休息・リラクゼーション
	13回	対象に応じた休息・苦痛の緩和・安楽確保の援助（演習）ポジショニング
	14回	対象に応じた休息・苦痛の緩和・安楽確保の援助（演習）罨法
	15回	試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術 メディカ出版	
参考書		
評価方法		
その他		

専門分野

授業科目名	日常生活を整える看護技術（食事・排泄）	
科目目的・目標	人間にとっての食事と排泄の意義を理解し、対象に応じた援助技術を習得する。 1. 食事・排泄の生理的、心理的、社会的意義について理解できる 2. 食事・排泄に影響を及ぼす要因について理解し、アセスメントできる。 3. 食事・排泄行動の要因をアセスメントし、対象の状態に応じた援助ができる。	
授業概要	生理的欲求である食事や排泄は、人間にとって健康の維持・生命の維持・生活の質の向上のために必要不可欠である。本授業では、より良い食事、栄養摂取方法、排泄方法から、対象に応じた食事や排泄方法を考え、援助を実施するための知識・技術・態度を習得する。	
担当講師	片岡 彩	
実務経験のある 教員等による授 業科目	5年間手術室、4年間慢性期病棟にて看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。	
開講時期：単位	2年次前期	1単位20時間
授業計画	1回	食事援助の基礎知識
	2回	対象に応じた食事介助（演習）
	3回	対象に応じた食事介助（演習）
	4回	対象に応じた食事介助（演習）
	5回	排泄援助の基礎知識
	6回	対象に応じた排泄介助（演習）
	7回	対象に応じた排泄介助（演習）
	8回	対象に応じた排泄介助（演習）
	9回	対象に応じた排泄介助（演習）
	10回	試験・まとめ
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術 看護がみえるVol.1	メディカ出版 メディックメディア
参考書		
評価方法		
その他		

専門分野

授業科目名	日常生活を整える看護技術（清潔・衣生活）																															
科目目的・目標	人間にとっての清潔の意義を理解し、対象に応じた援助技術を習得する。 1. 清潔・衣生活の生理的、心理的、社会的意義について理解できる 2. 清潔・衣生活に影響を及ぼす要因について理解し、アセスメントできる。 3. 清潔・衣生活を阻害する要因をアセスメントし、対象の状態に応じた援助ができる。																															
授業概要	人間にとっての「清潔」「衣生活」の意義を理解し、健康の充足や維持増進に必要な援助を学び、対象に応じた「清潔」や「衣生活」を援助するための知識・技術・態度を習得する。																															
担当講師	中安ゆかり																															
実務経験のある教員等による授業科目	訪問看護ステーションにて7年間看護師業務に従事。 実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。																															
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間																														
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1回</td><td>清潔援助の基礎知識</td></tr> <tr><td>2回</td><td>清潔援助の方法（入浴、シャワー浴、清拭）</td></tr> <tr><td>3回</td><td>清潔援助の方法（洗髪、手浴、足浴、口腔ケア、整容）</td></tr> <tr><td>4回</td><td>対象に応じた清潔援助（演習）</td></tr> <tr><td>5回</td><td>対象に応じた清潔援助（演習）</td></tr> <tr><td>6回</td><td>対象に応じた清潔援助（演習）</td></tr> <tr><td>7回</td><td>対象に応じた清潔援助（演習）</td></tr> <tr><td>8回</td><td>対象に応じた清潔援助（演習）</td></tr> <tr><td>9回</td><td>対象に応じた清潔援助（演習）</td></tr> <tr><td>10回</td><td>対象に応じた清潔援助（演習）</td></tr> <tr><td>11回</td><td>対象に応じた清潔援助（演習）</td></tr> <tr><td>12回</td><td>衣生活の援助の基礎知識</td></tr> <tr><td>13回</td><td>対象に応じた衣生活の援助（演習）</td></tr> <tr><td>14回</td><td>対象に応じた衣生活の援助（演習）</td></tr> <tr><td>15回</td><td>終講試験・まとめ</td></tr> </table>		1回	清潔援助の基礎知識	2回	清潔援助の方法（入浴、シャワー浴、清拭）	3回	清潔援助の方法（洗髪、手浴、足浴、口腔ケア、整容）	4回	対象に応じた清潔援助（演習）	5回	対象に応じた清潔援助（演習）	6回	対象に応じた清潔援助（演習）	7回	対象に応じた清潔援助（演習）	8回	対象に応じた清潔援助（演習）	9回	対象に応じた清潔援助（演習）	10回	対象に応じた清潔援助（演習）	11回	対象に応じた清潔援助（演習）	12回	衣生活の援助の基礎知識	13回	対象に応じた衣生活の援助（演習）	14回	対象に応じた衣生活の援助（演習）	15回	終講試験・まとめ
1回	清潔援助の基礎知識																															
2回	清潔援助の方法（入浴、シャワー浴、清拭）																															
3回	清潔援助の方法（洗髪、手浴、足浴、口腔ケア、整容）																															
4回	対象に応じた清潔援助（演習）																															
5回	対象に応じた清潔援助（演習）																															
6回	対象に応じた清潔援助（演習）																															
7回	対象に応じた清潔援助（演習）																															
8回	対象に応じた清潔援助（演習）																															
9回	対象に応じた清潔援助（演習）																															
10回	対象に応じた清潔援助（演習）																															
11回	対象に応じた清潔援助（演習）																															
12回	衣生活の援助の基礎知識																															
13回	対象に応じた衣生活の援助（演習）																															
14回	対象に応じた衣生活の援助（演習）																															
15回	終講試験・まとめ																															
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術 看護がみえるVol.1 メディカ出版 メディックメディア																															
参考書																																
評価方法																																
その他																																

専門分野

授業科目名	基礎看護技術総合演習	
科目目的・目標	<p>事例に対して臨床判断能力を活用し、看護援助を行うことができる。</p> <p>1. 既習の知識と技術を応用し、対象に応じた日常生活援助技術が提供できる。</p> <p>2. 患者の立場に立ってケアを考えることができる。</p> <p>3. 自己の看護技術の振り返りができる</p>	
授業概要	<p>看護技術評価（チェック）を実施する。</p> <p>技術チェックで実施した援助を振り返り、さらに良い援助を行うためのリフレクティブサイクルに基づいた行動をとることを身に着ける。</p>	
担当講師	黒川由美子	
実務経験のある教員等による授業科目	<p>大学病院にて6年間、主に急性期病棟にて看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。</p>	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	事例をアセスメントし、必要な看護援助を考える。
	2回	看護実践（演習）
	3回	看護実践（演習）
	4回	リフレクション
	5回	リフレクションに基づき再実施
	6回	事例をアセスメントし、必要な看護援助を考える。
	7回	看護実践（演習）
	8回	看護実践（演習）
	9回	リフレクション
	10回	リフレクションに基づき再実施
	11回	事例をアセスメントし、必要な看護援助を考える。
	12回	看護実践（演習）
	13回	看護実践（演習）
	14回	リフレクション
	15回	リフレクションに基づき再実施
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ 臨床看護総論	
参考書		
評価方法		
その他		

専門分野

成人看護学

授業科目名	セルフケア支援看護技術		
科目目的・目標	目的：健康状態の治癒過程・回復過程にある対象に必要な看護を思考する力と看護実践能力を習得するために、講義を通して、目標1～2の理解を深める。 目標： 1. 回復期にある対象が、その対象らしい生活を再構築するためのプロセスを理解する。 2. 健康課題や障害によって変化したQOLを維持・向上するために必要なリハビリテーションや		
授業概要	健康状態が急速に変化し、回復過程にある対象が、その人らしい生活を再構築するためのリハビリテーションや具体的な方法について講義する。		
担当講師	森谷友美		
実務経験のある教員等による授業科目	6年間、主に消化器外科病棟にて看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。		
開講時期：単位	2年次前期		1単位30時間
授業計画	1回	リハビリテーション看護における基本技術とは 自立の概念、ICF	講義
	2回	リハビリテーション期にある患者の特徴・生活機能 意志決定支援、障がい者の自立に向けた精神的支援	講義
	3回	リハビリテーション看護における生活支援のための看護技術 できるADL、しているADL、するADL、ADL評価法 チームアプローチ	講義
	4回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護技術 摂食・嚥下障害のある患者の口腔からの食事援助 摂食・嚥下障害のある患者の口腔ケア	講義
	5回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護技術 対象特異性リハビリテーション：乳房切除術後のリハビリテーション 血液透析患者へのシャント管理	講義
	6回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護技術 排泄機能障害のリハビリテーションと看護 事例：排泄機能障害（ストマ・自己導尿）	講義
	7回	演習：ストマ交換	演習
	8回	演習：ストマ交換	演習
	9回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護技術 考える・注意を払う・話す・受け取る・覚える・覚えている・思い出す機能障害と看護技術	講義
	10回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 情報収集・アセスメント・関連図	講義
	11回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 情報収集・アセスメント・関連図・看護計画立案	講義
	12回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 情報収集・アセスメント・関連図・看護計画立案	講義
	13回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 看護計画実施・評価 日常生活援助・症状の改善・機能の向上を目指す援助 (食事： 排泄： } 考える・注意を払う機能の障害により生じる生活支援 清潔： } 更衣： } 移動：片麻痺患者の歩行自立に向けた支援	
	14回	障がいのある対象の生活の再構築を目指す看護過程 看護計画実施・評価・日常生活援助・症状の改善・機能の向上を目指す援助	
	15回	終講試験	
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ リハビリテーション看護 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ 健康危機状況／セルフケアの再獲得 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ 疾患と看護 消化器 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ 疾患と看護 腎／泌尿器／内分泌・代謝 メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ 疾患と看護 脳・神経		
参考書	講義にて紹介		
評価方法	課題（20％） 終講試験（80％）		
その他			

専門分野

授業科目名	高齢者の生活を支える看護技術		
科目目的・目標	<p>老年期の特徴とその生活について理解し、高齢者の生命（命・いのち）と健康な生活の維持のための看護実践について学ぶ。</p> <p>1. 高齢者に特徴的な疾患や症状をふまえ、生活機能を整えるための援助を実践する能力を身に付けることができる。</p> <p>2. 高齢者の持てる力を活かした自立（自律）を目指し生活の質を維持する援助の必要性が理解</p>		
授業概要	様々な健康課題のある高齢者の、生活を支える看護について理解を深め、高齢者の生活に着目し生活の質の維持、拡充するための看護を実践する能力を身に付ける		
担当講師	山田良子		
実務経験のある教員等による授業科目	病院にて12年間、主に高齢者の看護師業務に従事。実務経験を活かし、高齢者と家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
開講時期：単位	2 年次後期		1 単位30時間
授業計画	1 回	高齢者の歩行・移動を支える看護技術（講義・演習）	
	2 回	高齢者の歩行・移動を支える看護技術（演習）	
	3 回	高齢者の満足な食生活を支える看護技術（講義・演習）	
	4 回	高齢者の満足な食生活を支える看護技術（演習）	
	5 回	高齢者の快適な排泄を支える技術（講義・演習）	
	6 回	高齢者の快適な排泄を支える看護技術（演習）	
	7 回	高齢者の清潔・衣生活を支える看護技術（講義・演習）	
	8 回	高齢者の清潔・衣生活を支える看護技術（演習）	
	9 回	高齢者の活動と休息を支える看護技術（講義・演習）	
	1 0 回	高齢者の活動と休息を支える看護技術（演習）	
	1 1 回	高齢者のコミュニケーションを支える看護技術（講義・演習）	
	1 2 回	高齢者のセクシュアリティを支える看護技術（講義・演習）	
	1 3 回	高齢者の介護予防・社会参加を促進する看護技術 アクティビティケア	
	1 4 回	高齢者の介護予防・社会参加を促進する看護技術 アクティビティケア	
	1 5 回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ	老年看護学①	高齢者の健康と障害
	デジタルナーシング・グラフィカ	老年看護学②	高齢者の看護の実践
参考書			
評価方法	筆記試験	80点	提出物・レポート 20点
その他			

分野

精神看護学

授業科目名	精神に障がいをもつ対象への看護過程	
科目目的	精神に障がいをもつ対象について、健康に影響を及ぼす要因を理解し、理論を用いながら支援する方法を学ぶ。	
科目目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神に障がいをもつ対象への理解を深める。 ・対象との関係性を考え自己の看護の姿勢を考える。 ・精神疾患と看護のアプローチの特徴を理解する。 	
担当講師	大橋恵美子	
実務経験のある 教員等による授 業科目	病院にて11年間、訪問看護ステーションにて1年半、看護師業務に従事。実務経験を活かし、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。	
開講時期：単位	2年次・後期	1単位・15時間
授業計画	1回	精神科看護における援助関係と他職種連携
	2回	精神に障がいを持つ患者の看護過程①事例紹介
	3回	精神に障害を持つ患者の看護過程②情報の整理とセルフケア要件
	4回	精神に障がいを持つ患者の看護過程③情報の整理とセルフケア要件
	5回	精神に障がいを持つ患者の看護過程④関連図と看護問題
	6回	精神に障がいを持つ患者の看護過程⑤看護計画立案・資料作成
	7回	精神に障がいを持つ患者の看護過程⑥実施と評価を考える
	8回	終講試験・まとめ
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践	
参考書	講義内で紹介する。	
評価方法		
その他		

専門分野

授業科目名	性と生殖の看護技術		
科目目的	性と生殖の機能に焦点を当て、性と生殖の健康状態を過ごすための日常生活行動を理解する。妊娠分娩産褥期の女性と胎児新生児が順調に経過するための日常生活の支援を学習する。		
授業概要	性と生殖機能を理解し、日常生活行動に適応したセルフケア行動を実践する。周産期の母子への日常生活の支援を実践する。		
科目目標			
担当講師	城所木綿子		
実務経験のある 教員等による授 業科目	助産師として7年間従事。実務経験を活かし、母性看護の対象を理解し、対象を多角的な視点で捉える能力を養う授業を行う。		
開講時期：単位	2年次前期		1単位30時間
授業計画	1回	オリエンテーション、月経時のセルフケア、マンスリーピクス	演習
	2回	妊孕性教育と家族計画、受胎調節法	演習
	3回	性感染予防教育と緊急避妊法	演習
	4回	不妊症の理解と支援	講義
	5回	妊娠初期の過ごし方、不快症状の緩和と対処	演習
	6回	妊娠中期の過ごし方、出産準備の実際	演習
	7回	妊娠期の食事療法と健康教育の実際	演習
	8回	妊娠期の食事療法と健康教育の実際	発表
	9回	分娩期の過ごし方、産痛緩和の実際	演習
	10回	産褥復古を促すセルフケア	演習
	11回	母乳育児を促すセルフケア	演習
	12回	胎外生活の適応を促す新生児の日常ケア	演習
	13回	早期新生児の適応・成長・発育を評価するケア	演習
	14回	産後1か月・生後1か月までのセルフケア支援	GW
	15回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	デジタル教科書；メディカ出版「ナーシンググラフィカシリーズ」 ①母性看護学概論・リプロダクティブヘルスと看護 ②母性看護の実際 ③母性看護技術		
参考書	デジタル教科書；メディカ出版「ナーシンググラフィカシリーズ」 ④健康の回復と看護「性・生殖機能障害」 ⑤疾患と看護「女性生殖器」		
評価方法	筆記試験 点 課題レポート 点		
その他			

専門分野

小児看護学

授業科目名	小児看護技術		
科目目的・目標	小児を「権利を持つ存在」として捉え、その権利が奪われることなく安全・安心な看護技術を実践するために必要な基礎知識を学ぶ。 1. 健康障害をもつ小児に必要な基礎看護技術がわかる。 2. 小児の対象特性に応じた看護技術がわかる。 3. プレパレーションの目的・目標を理解し、小児の対象特性に応じた実施ができ		
授業概要	健康レベルや生活背景に応じた日常生活の過ごし方、安全で安楽なケアを提供していくために科学的根拠を学び小児看護実践能力を育成する基本技術を学		
担当講師	大出 幸子		
実務経験のある教員等による授業科目	小児病棟にて5年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患児とその家族を理解し、対象に寄り添い、小児看護の機能と役割を理解し看護する能力を養う授業を行う。		
開講時期:単位	2年次後期		1単位30時間
授業計画	1回	小児看護技術とは。援助関係を形成する技術	講義
	2回	小児基本看護技術:環境を調整する技術	講義・演習
	3回	小児基本看護技術:食事・排泄援助技術	講義
	4回	小児基本看護技術:環境・食事・排泄	演習
	5回	小児基本看護技術:清潔・衣生活の援助技術	講義
	6回	小児基本看護技術:清潔・衣生活の援助技術	演習
	7回	小児基本看護技術:呼吸・循環を整える看護技術	講義
	8回	小児基本看護技術:与薬の技術	講義・演習
	9回	小児基本看護技術:プレパレーションとは。 発達段階別プレパレーション	講義・演習
	10回	小児基本看護技術:プレパレーションツールの作成	演習
	11回	小児基本看護技術:プレパレーションの実際	発表
	12回	先天性疾患、障がいをもつ小児と家族への看護	講義・演習
	13回	慢性疾患を持つ小児と家族への看護	講義・演習
	14回	急性疾患にある小児と家族への看護	講義・演習
	15回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 デジタルナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児の疾患と看護		
参考書	小児看護技術 南江堂		
評価方法	終講試験・レポート課題		
その他			

専門分野

小児看護学

授業科目名	健康障害のある子どもと家族の看護過程	
科目目的・目標	目的：健康障害や健康問題を持つ子どもとその家族を理解し、子どもの成長発達段階や健康状態、子どもと家族が置かれている様々な状況に合わせた援助を実践するために、療養行動やセルフケア能力を促進する援助について学習する。 目標：病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護を理解することができる。	
授業概要	健康を障害されることが、子ども・家族にとってどのような意味があるのか、子どもと家族の体験について学び、子どもと家族を一つの単位として捉え、健康レベルや生活背景に応じた日常生活の過ごし方、援助方法について看護過程を用いて理解する。	
担当講師	大出幸子	
実務経験のある教員等による授業科目	小児病棟にて5年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患児とその家族を理解し、対象に寄り添い、小児看護の機能と役割を理解し看護する能力を養う授業を行う。	
開講時期：単位	2年次後期	1単位15時間
授業計画	1回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 事例説明、情報整理
	2回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 アセスメント
	3回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 アセスメントの確認、関連図作成
	4回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 問題点抽出
	5回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 短期目標、長期目標、具体策立案
	6回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 看護計画発表
	7回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 実施・結果・評価
	8回	終講試験
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 デジタルナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児の疾患と看護	
参考書	小児看護技術 南江堂	
評価方法	課題提出・単位認定試験	
その他		

・実務経験のある教員の授業科目の一覧表（臨床検査学科）※新課程（省令で定める単位数等の基準数相当分）

講義要項(2) 科目コード	科目名	単位数	時間数	担当教員名	実務経験内容・それに基づく授業内容
308	血液検査学Ⅰ(実習)	1	40	石田 沙妃	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。認定血液検査技師。血液一般検査、形態学を中心に臨床での検査技師の在り方を教授する。
310	血液検査学Ⅱ(実習)	1	40	伊藤 恵子	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。
317	寄生虫検査学実習	1	40	山本 徳栄	保健所検査室、病院臨床検査部、衛生研究所に従事し、寄生虫検査、微生物検査に関わる。寄生虫検査の実際について教授する。医学博士。
319	一般検査学(実習)	1	40	飯塚 桂子	病院臨床検査科に従事し、一般検査に関わる。認定一般検査技師。尿検査、尿沈渣検査を中心に、一般検査の実際について教授する。他に2級微生物・血液取得。
329	輸血・移植検査学Ⅰ(実習)	1	40	徳大路 洋史	病院臨床検査科に従事し、輸血・移植検査に関わる。輸血・移植検査の実際について教授する。
335	微生物検査学Ⅰ(実習)	1	40	飯塚 桂子	病院臨床検査科に従事し、微生物検査に関わる。感染対策を含め、微生物検査の実際について教授する。
337	微生物検査学Ⅱ(実習)	1	40	高橋 俊	病院中央検査部の微生物検査に従事。微生物検査と臨床の関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。
339	生理機能検査学Ⅰ	1	30	山口 博	検診センターに従事し、生理機能検査に関わる。心電図検査、心音図検査等を中心に循環機能検査について教授する。
342	生理機能検査学Ⅱ(実習)	1	40	佐藤 和	病院臨床検査科に従事し、生理機能検査に関わる。生理機能検査の実際について教授する。
344	生理機能検査学Ⅲ(実習)	1	40	大村 一之	大学呼吸器内科、または病院検査科に従事し、生理機能検査に関わる。肺機能検査、脳波検査、筋電図検査の実際について教授する。
355	基礎医療安全管理学	1	15	砂川 進	病院臨床検査科に従事し、検査科主幹を経験。臨床検査全般の管理業務に関わる。患者対応、リスクマネジメント、感染対策、検体採取等を中心に、医療安全について教
計		11	405		

【実務経験の活用】

臨床検査学科では、臨床検査技師として5年以上の臨床経験を持つ教員の経験を活かし、理論と実践の整合性を取りその専門性を深めるための教育を行っています。

専門分野

科目名	血液検査学 I (実習)			科目コード	308	授業形態	実習100%
選択区分	必修	履修時期	2年次前期	単位数	1	時間数	40
担当教員	石田 沙妃・伊藤 恵子						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。認定血液検査技師。血液一般検査、形態学を中心に臨床での検査技師の在り方を教授する。						
授業概要	血液検査の目的に沿った、検査法の原理を理解できる、試薬・器具等を用意することができ、操作法を身につけ、結果を導き出せること。						
授業目標	実習した結果についての考察ができ、さらに臨床的意義についても説明できる。						

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1	末梢血液標本の作製法	血液薄層塗抹標本作製	石田
2	末梢血液標本の作製法	血液薄層塗抹標本作製	石田
3	染色法	普通染色	石田
4	末梢血液像の観察	正常白血球のスケッチ	石田
5	末梢血液像の観察	白血球の百分率	石田
6	末梢血液像の観察	白血球の百分率	石田
7	末梢血液像の観察	赤血球異常形態スケッチ	石田
8	末梢血液像の観察	赤血球異常形態スケッチ	石田
9	末梢血液像の観察	白血球異常形態スケッチ	石田
10	末梢血液像の観察	白血球異常形態スケッチ	石田
11	骨髄像の観察	正常markの観察方法とスケッチ	石田
12	骨髄像の観察	正常markの観察方法とスケッチ	石田
13	特殊染色法	ペルオキシダーゼ染色	石田
14	特殊染色法	ペルオキシダーゼ染色の観察とスケッチ	石田
15	特殊染色法	エステラーゼ染色	石田
16	特殊染色法	エステラーゼ染色の観察とスケッチ	石田
17	特殊染色法	好中球アルカリホスファターゼ活性	石田
18	特殊染色法	好中球アルカリホスファターゼ活性の観察とスケッチ	石田
19	実技試験	実技試験	石田
20	実技試験	実技試験	石田
成績評価方法	終講試験50% 実技試験 30% レポート20% 課題評価:レポート内容で評価をおこなう。		
教科書	血液検査学(医歯薬出版)		
参考図書等	血液細胞アトラス(文光堂)		
授業外の学習について	レポートを作成することで、実習内容を学習することになりますので、金曜日の放課後はレポート作製の時間としてください。		
備考			

専門分野

科目名	血液検査学Ⅱ(実習)			科目コード	310	授業形態	実習100%
選択区分	必修	履修時期	2年次後期	単位数	1	時間数	40
担当教員	伊藤 恵子・石田 沙妃						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。						
授業概要	血液検査の目的に沿った、検査法の原理を理解できる、試薬・器具等を用意することができ、操作法を身につけ、結果を導き出せること。						
授業目標	実習した結果についての考察ができ、さらに臨床的意義についても説明できる。						

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1	血球数算定	静脈採血	伊藤・石田
2	血球数算定	自動血球算定機操作・ヘモグロビン濃度	伊藤・石田
3	血球数算定	赤血球数算定(視算法)・Ht値	伊藤・石田
4	血球数算定	赤血球指数計算	伊藤・石田
5	血球数算定	白血球数(視算法)	伊藤・石田
6	血球数算定	好酸球数(視算法)	伊藤・石田
7	赤血球に関する検査	赤血球沈降速度	伊藤・石田
8	赤血球に関する検査	網赤血球数	伊藤・石田
9	血小板に関する検査	出血時間	伊藤・石田
10	血小板に関する検査	毛細血管抵抗試験	伊藤・石田
11	血小板に関する検査	血小板粘着能	・血小板数算定 伊藤・石田
12	血小板に関する検査	血小板凝集能	伊藤・石田
13	血液凝固内因系検査	活性化部分トロンボプラスチン時間	伊藤・石田
14	血液凝固内因系検査	結果の考察	伊藤・石田
15	血液凝固外因系検査	プロトロンビン時間	伊藤・石田
16	血液凝固外因系検査	結果の考察	伊藤・石田
17	実技試験		伊藤・石田
18	実技試験		伊藤・石田
19	まとめ		伊藤・石田
20	終講試験		伊藤・石田
成績評価方法	終講試験50% 実技試験 30% レポート20% 課題評価:レポート内容で評価をおこなう。		
教科書	血液検査学(医歯薬出版)		
参考図書等			
授業外の学習について	レポートを作成することで、実習内容を学習することになりますので、金曜日の放課後はレポート作製の時間としてください。		
備考			

専門分野

科目名	寄生虫検査学実習			科目コード	317	授業形態	講義、実習
選択区分	必修	履修時期	1年次前期	単位数	1	時間数	40
担当教員	山本 徳栄、飯塚 桂子						
実務経験とその関連資格	実務経験あり。保健所検査室、病院臨床検査部、衛生研究所において、寄生虫検査、微生物検査等の業務に従事した。寄生虫学に関する技術解説の執筆、認定試験委員および実習を多数担当した。医学博士。						
授業概要	① 原虫類・蠕虫類等の形態学的特徴、感染経路、宿主・寄生虫相互関係、病態、免疫学的検査および遺伝子検査について解説する。 ② 衛生動物が媒介するリケッチア症など各種感染症について解説する。 ③ 寄生虫類の同定に適した検査技術を適正に実践できるように実習を行う。						
授業目標	① 原虫類・蠕虫類等の分類、形態、生活環、ヒトへの感染様式および病態を理解できる。 ② 寄生虫類の検査技術を学び、適正に実践して正確に形態学的同定ができる。 ③ 国家試験に合格可能な知識を習得できる。						

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1 2	総論 原虫類総論・各論 I	寄生虫学総論 原虫類総論・各論 I	山本
3 4	原虫類各論 II 線虫類総論・各論 I	原虫類各論 II 線虫類総論・各論 I	山本
5 6	線虫類各論 II	線虫類各論 II	山本
7 8	吸虫類 糸虫類	吸虫類総論・各論 糸虫類総論・各論	山本
9 10	衛生動物学	衛生動物学総論・各論 昆虫等が媒介する各種感染症	山本
11 12	成虫と中間宿主の観察 顕微鏡の取り扱い方 薄層直接塗抹法とヨード染色 濾紙培養法 各種虫卵の観察	成虫と中間宿主の観察 顕微鏡の取り扱い方 薄層直接塗抹法とヨード染色 セロファンテープ法 濾紙培養法 各種虫卵の観察とスケッチ	山本、飯塚
13 14	MGL法(ホルマリン・エーテル法) コーン染色 各種虫卵と原虫類の観察	MGL法(ホルマリン・エーテル法) コーン染色 各種虫卵と原虫類の観察とスケッチ	山本、飯塚
15 16	クリプトスポリジウムの検出法(シヨ糖浮遊法と抗酸染色) 各種虫卵と原虫類の観察	シヨ糖浮遊法 Kinyoun抗酸染色 各種虫卵と原虫類の観察とスケッチ	山本、飯塚
17 18	マラリア原虫の検査法と観察	マラリア原虫の検査方法 マラリア原虫とトリパノソーマの観察とスケッチ	山本、飯塚
19 20	Anisakis 亜科線虫の同定方法 衛生害虫の観察 実習の総括 終講試験	アニサキス、シュードテラノバ等の観察 マダニ、ツツガムシ幼虫等の観察とスケッチ 各種検査方法、各種虫卵および原虫類の形態に関する復習	山本、飯塚
成績評価方法	終講試験 50% 課題 50% 課題評価: 実習では寄生虫卵、原虫類および幼虫を鏡検し、スケッチしたものを評価する。スケッチの要点は講義および実習中に解説する。それらを理解して形態学的特徴が描けていれば80点とし、正確さにより加点、減点を行う。 要点のまとめの「学習支援テスト」を8部程度配布するので、それらを自宅で解くことで理解を深めることができる。 終講試験では、それらのテストの中から類似の問題を8割以上出題する。		
教科書	医動物学(南山堂)		
参考図書等	国家試験の過去問題集(市販) 山本作成の配布資料: 医動物学概論、寄生虫学のまとめ(表7枚)、カラーアトラス虫卵・原虫類・マラリア原虫(3枚)など。		
授業外の学習について	多大なる学習内容に対して、限られた授業時間である。 参考図書および配布資料等を活用し、授業1回に対して、3時間程度の予習・復習が必要である。		
備考			

専門分野

科目名	一般検査学(実習)			科目コード	319	授業形態	実習
選択区分	必修	履修時期	1年次後期	単位数	1	時間数	40
担当教員	飯塚 桂子						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、一般検査に関わる。認定一般検査技師。尿検査、尿沈渣検査を中心に、一般検査の実際について教授する。他に2級微生物・血液取得。						
授業概要	一般検査学で学んだ内容について、原理、臨床的意義、測定方法を理解する。						
授業目標	一般検査項目について、各検査項目の原理、臨床的意義、測定方法を理解し、説明できる。						

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション・尿試験紙法	実習の心得、注意点、洗浄、廃棄、レポートおよび原ノートの書き方等 尿試験紙法	飯塚
2	オリエンテーション・尿試験紙法	実習の心得、注意点、洗浄、廃棄、レポートおよび原ノートの書き方等 尿試験紙法	飯塚
3	尿タンパク定性	煮沸法、スルホサリチル酸法、試験紙法	飯塚
4	尿タンパク定性	煮沸法、スルホサリチル酸法、試験紙法	飯塚
5	尿糖定性・アセトン体定性	ニーランデル法、ベネディクト法、試験紙法 ランゲ法、ロテラー吉川法、レガール法、試験紙法	飯塚
6	尿糖定性・アセトン体定性	ニーランデル法、ベネディクト法、試験紙法 ランゲ法、ロテラー吉川法、レガール法、試験紙法	飯塚
7	ビリルビン定性・ウロビリニン体定性	グメリン法、ハリソン法、イクトテスト、試験紙法、 ワーレスダイヤモンド法、シュレージンガー法、試験紙法	飯塚
8	ビリルビン定性・ウロビリニン体定性	グメリン法、ハリソン法、イクトテスト、試験紙法、 ワーレスダイヤモンド法、シュレージンガー法、試験紙法	飯塚
9	潜血反応	グアヤック試験、試験紙法、血尿とHb尿の鑑別 塩析によるHb尿とミオグロビン尿の鑑別	飯塚
10	潜血反応	グアヤック試験、試験紙法、血尿とHb尿の鑑別 塩析によるHb尿とミオグロビン尿の鑑別	飯塚
11	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法	飯塚
12	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法	飯塚
13	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法、正常成分と異常成分	飯塚
14	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法、正常成分と異常成分	飯塚
15	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法、結果の記載	飯塚
16	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法、結果の記載	飯塚
17	髄液検査・まとめ	フックス・ローゼンタール法	飯塚
18	実技試験		飯塚
19	実技試験		飯塚
20	終講試験		飯塚
成績評価方法	終講試験 50% レポート 50%		
教科書	最新 臨床検査講座 一般検査学(医歯薬出版)		
参考図書等	実習テキスト		
授業外の学習について	実習テキストの考察を解くことで、知識をひろげる。予習を必ず行い実習に臨む。		
備考			

専門分野

科目名	輸血・移植検査学 I (実習)			科目コード	329	授業形態	講義10% 実習90%	
選択区分	必修	履修時期	2年次前期		単位数	1	時間数	40
担当教員	徳大路 洋史							
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、輸血・移植検査に関わる。輸血・移植検査の実際について教授する。							
授業概要	免疫検査法の原理を理解し、それぞれの検査法の特徴や臨床的意義を学び、免疫疾患への応用範囲についての知識を習得する。							
授業目標	抗原抗体反応を利用したいろいろな免疫検査法を理解し、それぞれの測定原理や特徴および検査法がもつそれぞれの測定意義や免疫疾患を説明できる。							

授業計画

回数	項目	内容	担当者	
1	輸血・移植検査の基本技術	実験器具の取り扱い方、試薬作製	徳大路	
2	輸血・移植検査の基本技術	実験器具の取り扱い方、試薬作製	徳大路	
3	輸血・移植検査の基本技術	採血、赤血球浮遊液の正確な調整法	血清希釈法、赤血球凝集反応	徳大路
4	輸血・移植検査の基本技術	採血、赤血球浮遊液の正確な調整法	血清希釈法、赤血球凝集反応	徳大路
5	凝集反応	赤血球凝集反応:寒冷凝集反応	徳大路	
6	凝集反応	赤血球凝集反応:寒冷凝集反応	徳大路	
7	凝集反応	梅毒血清反応:RPRカードテスト、TPPA法	徳大路	
8	凝集反応	梅毒血清反応:RPRカードテスト、TPPA法	徳大路	
9	沈降反応	ゲル内沈降反応:オクトロニー法	徳大路	
10	沈降反応	ゲル内沈降反応:オクトロニー法	徳大路	
11	蛍光抗体法 自己抗体検査	抗核抗体検査:蛍光顕微鏡での観察	徳大路	
12	蛍光抗体法 自己抗体検査	抗核抗体検査:蛍光顕微鏡での観察	徳大路	
13	感染症の抗原抗体検査	受身赤血球凝集反応:HBs抗原/HBs抗体検査	徳大路	
14	感染症の抗原抗体検査	受身赤血球凝集反応:HBs抗原/HBs抗体検査	徳大路	
15	電気泳動法	免疫電気泳動法	徳大路	
16	電気泳動法	免疫電気泳動法	徳大路	
17	実技試験		徳大路	
18	実技試験		徳大路	
19	終講試験		徳大路	
20	解説		徳大路	
成績評価方法	終講試験90% レポート10% レポート評価:レポート内容について評価を行う。			
教科書	最新臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版) 輸血・移植検査技術教本(丸善出版)			
参考図書等				
授業外の学習について				
備考				

専門分野

科目名	微生物検査学 I (実習)			科目コード	335	授業形態	講義20% 実習80%
選択区分	必修	履修時期	2年次前期	単位数	1	時間数	40
担当教員	飯塚 桂子						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、微生物検査に関わる。感染対策を含め、微生物検査の実際について教授する。						
授業概要	適確な感染症の診断と治療を実施するため微生物の病原性や同定法、治療抗菌薬について理解し感染症の原因菌を的確に判断し治療に有効な抗菌薬をせめすことができるようになる。また院内感染予防対策を実施するため耐性菌、感染経路などを理解し感染対策の中心的な役割を果たすようになる。						
授業目標	微生物と惹起する感染症を列挙することができる。 微生物の同定法に必要な項目を述べ、結果を判定することができる。 微生物の形態学的特徴、生物学的性状を述べることができる。						

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1	基本操作 好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌同定法(1)(2)	<i>Staphylococcus</i> 属の同定 <i>Streptococcus</i> 属の同定	飯塚
2	好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌同定法(1)(2)	<i>Staphylococcus</i> 属の同定 <i>Streptococcus</i> 属の同定	飯塚
3	好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌同定法(1)(2)	<i>Staphylococcus</i> 属の同定 <i>Streptococcus</i> 属の同定	飯塚
4	好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌同定法(1)(2)	<i>Staphylococcus</i> 属の同定 <i>Streptococcus</i> 属の同定	飯塚
5	同定法(3) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定①	飯塚
6	同定法(3) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定①	飯塚
7	同定法(3) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定①	飯塚
8	同定法(3) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定①	飯塚
9	同定法(4) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定②	飯塚
10	同定法(4) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定②	飯塚
11	同定法(4) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定②	飯塚
12	同定法(4) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定②	飯塚
13	同定法(5)(6) <i>Vibrio</i> 属 ブドウ糖非発酵菌	<i>Vibrio</i> 属・ブドウ糖非発酵菌の同定	飯塚
14	同定法(5)(6) <i>Vibrio</i> 属 ブドウ糖非発酵菌	<i>Vibrio</i> 属・ブドウ糖非発酵菌の同定	飯塚
15	同定法(5)(6) <i>Vibrio</i> 属 ブドウ糖非発酵菌	<i>Vibrio</i> 属・ブドウ糖非発酵菌の同定	飯塚
16	同定法(5)(6) <i>Vibrio</i> 属 ブドウ糖非発酵菌	<i>Vibrio</i> 属・ブドウ糖非発酵菌の同定	飯塚
17	同定法(7) レジオネラ属 特殊染色	レジオネラ属の同定 異染小体染色 芽胞染色 ヒメネス染色	飯塚
18	同定法(7) レジオネラ属 特殊染色	レジオネラ属の同定 異染小体染色 芽胞染色 ヒメネス染色	飯塚
19	実技試験		飯塚
20	実技試験		飯塚
成績評価方法	最終試験(実技試験、口頭試問、小テストを含む) 80%、レポート20%(レポート評価:レポート内容について評価を行う)。最終評価については、総合的に判断する。		
教科書	最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版)		
参考図書等	臨床微生物検査ハンドブック(三輪書店)、微生物検査ナビ(栄研化学株式会社)		
授業外の学習について	期限内に必ず実習レポートを作成し、提出する。事前に配布される口頭試問の問題を暗記する。		
備考	実習内容によっては、実習時間外で結果の判定や実習の準備などがある。		

専門分野

科目名	微生物検査学Ⅱ(実習)			科目コード	337	授業形態	講義20% 実習80%
選択区分	必修	履修時期	2年次後期	単位数	1	時間数	40
担当教員	高橋 俊						
実務経験とその関連資格	病院中央検査部の微生物検査に従事。微生物検査と臨床の関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。						
授業概要	適確な感染症の診断と治療を実施するため微生物の病原性や同定法、治療抗菌薬について理解し感染症の原因菌を的確に判断し治療に有効な抗菌薬をせめすことができるようになる。また院内感染予防対策を実施するため耐性菌、感染経路などを理解し感染対策の中心的な役割を果たすようになる。						
授業目標	微生物と惹起する感染症を列挙することができる。 微生物の同定法に必要な項目を述べ、結果を判定することができる。 微生物の形態学的特徴、生物学的性状を述べることができる。						

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1	その他のGNRの観察・培養	<i>Haemophilus</i> 属、 <i>Campylobacter</i> 属、 <i>Listeria</i> 属の観察と培養	高橋
2	抗酸菌染色	Ziehl-Neelsen染色	高橋
3	<i>Haemophilus</i> 属の同定	<i>Haemophilus</i> 属の同定判定(XV要求性、溶血性)	高橋
4	嫌気性菌・真菌の培養	<i>Clostridium</i> 属の嫌気培養・ <i>Candida</i> 属・ <i>Aspergillus</i> 属の培養	高橋
5	McFarland比濁法と菌数測定	マクファーランド濁度標準液の調整と菌液の培養	高橋
6	常在菌と起炎菌の鑑別	手指および口腔内の培養	高橋
7	McFarland比濁法と菌数測定	グラム染色と培養菌数測定	高橋
8	常在菌と起炎菌の鑑別	手指および口腔内常在菌の培養判定	高橋
9	薬剤感受性	ディスク拡散法・微量液体希釈法、耐性菌検査	高橋
10	薬剤感受性	ディスク拡散法・微量液体希釈法、耐性菌検査	高橋
11	薬剤感受性	薬剤感受性および耐性菌検査の判定	高橋
12	薬剤感受性	薬剤感受性および耐性菌検査の判定	高橋
13	同定検査	検体からの培養同定	高橋
14	同定検査	検体からの培養同定	高橋
15	同定検査	検体からの培養同定	高橋
16	同定検査	検体からの培養同定	高橋
17	同定検査	検体からの培養同定	高橋
18	同定検査	検体からの培養同定	高橋
19	実技試験	同定検査結果最終報告	高橋
20	実技試験	口頭試問	高橋
成績評価方法	最終試験(実技試験、口頭試問を含む) 70%、レポート30%(レポート評価:レポート内容について評価を行う)。最終評価については、総合的に判断する。		
教科書	最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版)		
参考図書等	臨床微生物検査ハンドブック(三輪書店)、微生物検査ナビ(栄研化学株式会社)		
授業外の学習について	期限内に必ず実習レポートを作成し、提出する。事前に配布される口頭試問の問題を暗記する。		
備考	実習内容によっては、実習時間外で結果の判定や実習の準備などがある。		

専門分野

科目名	生理機能検査学 I			科目コード	339	授業形態	講義90% 演習10%
選択区分	必修	履修時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
担当教員	山口 博						
実務経験とその関連資格	実務経験あり(検診センターに従事し、生理機能検査に関わる。心電図検査、心音図検査等を中心に循環機能検査について教授する。)						
授業概要	生理機能検査は患者を直接調べる検査であることから、知識や技術だけではなく、医療安全に関する知識やコミュニケーション能力も必要とされる。これらを兼ね備えた医療従事者を目指す。						
授業目標	生理機能検査と生理学との関連を理解し、正常状態を理解することを目標とする。						

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1	循環機能検査	生理機能で行う上での患者対応	山口
2	循環機能検査	心電図波形の成り立ち	山口
3	循環機能検査	心電図の誘導方法、心電計の構造	山口
4	循環機能検査	12誘導心電図以外の心電図	山口
5	循環機能検査	正常心電図と波形の計測	山口
6	循環機能検査	アーチファクト	山口
7	循環機能検査	電気軸	山口
8	循環機能検査	運動負荷心電図	山口
9	循環機能検査	異常心電図 軸偏位、徐脈、頻脈	山口
10	循環機能検査	異常心電図 上室性不整脈	山口
11	循環機能検査	異常心電図 心室期外収縮	山口
12	循環機能検査	異常心電図 ブロック	山口
13	循環機能検査	異常心電図 虚血性心疾患	山口
14	循環機能検査	心音図	山口
15	終講試験	筆記	山口
成績評価方法	終講試験 100%		
教科書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)		
参考図書等			
授業外の学習について			
備考			

専門分野

科目名	生理機能検査学Ⅱ(実習)			科目コード	342	授業形態	実習
選択区分	必修	履修時期	1年次後期	単位数	1	時間数	40
担当教員	佐藤 和						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、生理機能検査に関わる。生理機能検査の実際について教授する。						
授業概要	呼吸機能検査、感覚機能検査						
授業目標	呼吸機能検査、感覚機能検査の意義理解し、検査説明をすることができる。						

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1	平衡機能検査	静的・動的体平衡機能検査	佐藤
2	平衡機能検査	静的・動的体平衡機能検査	佐藤
3	眼底検査	眼底撮影	佐藤
4	眼底検査	眼底撮影	佐藤
5	聴覚検査	聴覚検査	佐藤
6	聴覚検査	聴覚検査	佐藤
7	味覚検査	味覚検査	佐藤
8	味覚検査	味覚検査	佐藤
9	嗅覚検査	嗅覚検査	佐藤
10	嗅覚検査	嗅覚検査	佐藤
11	呼吸機能検査	VC・FVC	佐藤
12	呼吸機能検査	VC・FVC	佐藤
13	呼吸機能検査	FRC	佐藤
14	呼吸機能検査	DLCO	佐藤
15	呼吸機能検査	クロージングボリューム	佐藤
16	呼吸機能検査	血液ガス・実技試験内容	佐藤
17	呼吸機能検査	呼吸実技試験	佐藤
18	呼吸機能検査	呼吸実技試験	佐藤
19	呼吸機能検査	まとめ	佐藤
20	終講試験		佐藤
成績評価方法	終講試験(筆記、実技)80%+総合評価(授業態度、レポート等)20%		
教科書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)		
参考図書等	呼吸機能検査技術教本(丸善出版)		
授業外の学習について			
備考			

専門分野

科目名	生理機能検査学Ⅲ(実習)			科目コード	344	授業形態	実習	
選択区分	必修	履修時期	2年次前期		単位数	1	時間数	40
担当教員	大村 一之、藤原 美香							
実務経験とその関連資格	実務経験あり(大学呼吸器内科、または病院検査科に従事し、生理機能検査に関わる。肺機能検査、脳波検査、筋電図検査の実際について教授する。)							
授業概要	学生自身が検者、被検者として実際に検査を行う。検査の技術と能力を養うとともに、被検者(患者様)に対する配慮、および検査データの評価を行い、生理機能検査の意義について理解する。							
授業目標	実際に検査機器を用いて、患者に対しての医療接遇や検査および計測を行い、検査の意義・技術について理解を深める。							

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1	呼吸機能検査	SVC, FVC, フローボリューム曲線の呼吸生理と検査法	大村
2			
3	呼吸機能検査	SVC, FVC, フローボリューム曲線の検査実習	大村
4			
5	呼吸機能検査	精密肺機能検査の呼吸生理と検査法(機能的残気量測定, 肺拡散能, クロージングボリューム)	大村
6			
7	呼吸機能検査	実技試験 ・肺機能検査と結果判読及び病態との関連	大村
8			
9	脳波検査	電極の装着(10/20電極法)	藤原
10			
11	脳波検査	10/20電極法による単極導出、双極導出	藤原
12			
13	脳波検査	10/20電極法による単極導出、双極導出、賦活法	藤原
14			
15	脳波検査	実技試験 ・電極の装着(10/20電極法)	藤原
16			
17	筋電図検査	運動神経伝導検査 感覚神経伝導速度 F波伝導検査、H反射	大村/藤原
18			
19			
20	終講試験	筆記試験	
成績評価方法	終講試験、実技試験、レポート評価を合わせて 100%とする。		
教科書	実習テキスト(PDF)		
参考図書等	最新臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)		
授業外の学習について			
備考			

専門分野

科目名	基礎医療安全管理学			科目コード	355	授業形態	講義100%
選択区分	必修	履修時期	1年次後期	単位数	1	時間数	15
担当教員	砂川 進						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、検査科主幹を経験。臨床検査全般の管理業務に関わる。患者対応、リスクマネジメント、感染対策、検体採取等を中心に、医療安全について教授する。						
授業概要	検体採取、タスク・シフトシェア業務の拡大に伴い、医療スタッフと患者様とのコミュニケーションスキルや医療事故での対応を理解するとともに、感染対策や安全管理を理解する。						
授業目標	患者さんやスタッフとのコミュニケーションスキルが向上する。 インシデント・アクシデント報告の重要性が理解でき、活用できるようになる。 採血や各検体採取、タスク・シフトシェア業務において、感染対策など安全管理に適した行動ができる。						

授業計画

回数	項目	内容	担当者
1	臨床検査技師と患者とのかわり医療倫理	技師と患者の関わり、接遇、コミュニケーションスキル、検査説明、チーム医療、医療倫理	砂川
2	リスクマネジメント	臨床検査と医療事故、インシデント・アクシデント報告、患者取り違え、検体取り違え	砂川
3	リスクマネジメント 感染対策	法的知識と責任範囲 感染対策の意義と考え方、手指衛生	砂川
4	感染対策	個人防具(PPE)の使用法、標準予防策、感染経路別予防策、ワクチン等による予防、アウトブレイク、	砂川
5	各種検査等の手技に伴う注意事項・安全管理	総論 検体採取 採血	砂川
6	各種検査等の手技に伴う注意事項・安全管理	検体採取 各部位からの検体採取 鼻腔・咽頭等、喀痰、皮膚・口腔等、消化管内視鏡検査による組織検体の採取、肛門からの検体採取	砂川
7	各種検査等の手技に伴う注意事項・安全管理	タスク・シフト/シェア 採血に伴う静脈路確保、静脈路への成分採血装置の接続並びに操作、超音波検査における静脈路からの造影剤注入、持続皮下グルコース検査、ほか	砂川
8	終講試験		砂川
成績評価方法	終講試験 100%		
教科書	最新臨床検査学講座 医療安全管理学(医歯薬出版)		
参考図書等	配布資料		
授業外の学習について	毎回、講義終了後に理解度確認のため小テストを実施するので、授業計画に示した範囲の教科書を事前に読んでおくこと。		
備考			